

※クラリス洗脳中

「するうッ♥おおお、おマンコの奥ううッ♥へんなのおツ、くるッ、はへえええええ
えええツツ♥♥」

※ニルヘアというキャラです。ニーラの幼馴染。捕らえられています。

(気持ち悪いわね。一体何をする気?)

そしてボフンという音が触手内から鳴る。

その実態は……。

「フムオooooooooooooooooooooッッッ！！！」

絶頂が終わり潮が噴き終わっても、触手マスク内にはガスが断続的に発射され、ニルヘイアの連続絶頂は止まることがない。

「おちんちん気持ちいいッ♥もっとビュービューだすううううッ♥ザーメンいっぱい出して
もっと気持ちよくなるううううううッ♥♥」

全員が全員、狂ったように喘ぎ声を上げ、何度も射精を繰り返していた。
触手オナホはギュッとペニスを締め付け、内部の突起物達がしっかりとペニスを包み込み、激しくジュボボツ、ジュボボツとペニスをしごいている。
竿に走るゾリゾリ感が腰を震えるほどの強い快感を生み出し、亀頭に走るコリコリ感が脳を溶かすような快感を生み出し、四人は腰が抜けるような射精感を我慢できずに、ペニスから何度も劣情の塊を吐き出し続けている。
しごく激しい音は空間に響き、四人のペニスの根元からボタボタと白濁色のドロドロの液体が床へと零れ落ち、マンコからはトロトロの愛液がとめどなく溢れ、太股を伝って床へと垂れ落ちていき、四人は腰は突き出しっぱなしで、快楽を貪ろうとヘコヘコと腰を無意識に動かしている。

・第5章

※最強の存在、バハムート（ルティーヤ）が朦朧とした意識の中、女王に調教されている。（赤ちゃんプレイ）

「では、そろそろ気持ちよくしてあげましょう」

そう言って、フローラはルティーヤの下腹部に手をやり、人差し指一本をトロトロになっているルティーヤの蜜壺の中へとゆっくり入れていく。

「ああああっ♥♥」

肉体改造のおかげで膣は敏感になっており、指一本が擦れるだけで、膣奥から大量の愛液があふれ出し、ルティーヤは身体を快楽でビクビクと痙攣させる。
フローラはゆっくりと指を動かして、中を優しくかき混ぜる。

「どう？気持ちいい？」

「はっ、あああ♥きもち、いいっ♥」

「おまんこ気持ちいい、おまんこ気持ちいいって言ってみなさい。そしたらもっと気持ちいいですよ」

「はんん、あううっ♥おまんこ、きもちいい♥おまんこ、きもちいいっ♥」

フローラは指を動かしながら、膣の具合が丁度良くなった時に、指を二本に増やして、指をクイクイと動かしながら、膣の上部分を擦り上げていく。

「ひにやああッ♥ふわあああッ、あああッ、あはああッ♥あッ♥ああッ♥」

腰からせり上がってくる強い快感でルティーヤは何も考えることができない。
膣の奥、子宮がキュンキュンと反応し、膣をキュッと締め上げる。
二本の指がリズムカルにトントンとGスポットを叩いたと思うと、指をクイクイと動かし、Gスポットを搔いていく。

「はんんっ、ああああッ♥きもちっ♥あはああッ、おまんこっ♥きもちいよおっ♥♥」

潤んだ瞳がフローラを見つめる。
その瞳と表情が愛くるしく、フローラは指をさらに激しく動かす。

「ひゃあああああッ♥♥ああああんんっ、きもちッ♥きもちいいッ♥あああああああッ、イクッ♥おまんこイクッ♥イクイクイクッ♥♥イクうううううううッ♥♥♥」

目を見開き、ルティーヤはフローラの身体を強く締め付け、ルティーヤの身体がガクガクと痙攣する。
膣は収縮を繰り返し、フローラの指を締め付けてくる。

「よくイケました。んちゅ、んふう、ちゅ、ちゅる、んちゅ」

「ふへえ、んふう、ふう、んふうう、んん」

舌と舌がいやらしく絡み合う。

絶頂で硬直した身体が瞬く間に弛緩していく。

「キス、気持ちいい？」

「ふああああ♥きもち、いい……」

ルティーヤは、は一、は一と息を吐きながら、トロトロになった瞳でフローラを見つめる。